

第89期中間報告書

平成26年4月1日から平成26年9月30日まで

アンリツ株式会社
www.anritsu.com/ir



89th
Interim Report
証券コード：6754





株主の皆様におかれましては、平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

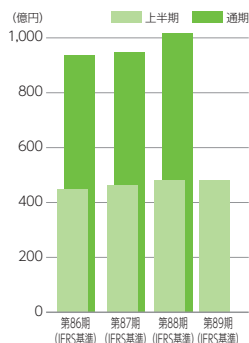
ここに第89期上半期（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

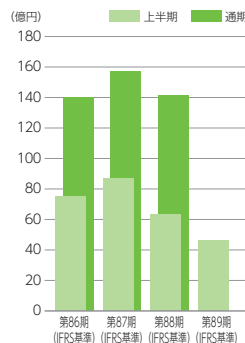
平成26年12月

社長 橋本 裕一

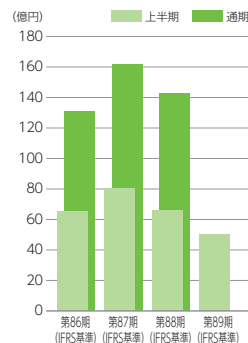
売上収益



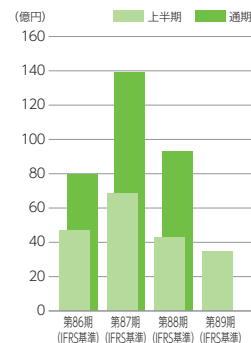
営業利益



税引前当期 (四半期) 利益



当期 (四半期) 利益



■ 当社グループを取り巻く事業環境及び当上半期の主な取組み

当上半期における世界経済は、米国における緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、東欧の政治情勢緊迫化や中東における政情不安拡大等、不透明な状況が継続しました。国内においては、消費税増税の影響への懸念はあるものの、金融・財政政策や成長戦略及び円高修正効果等による景気回復への期待が一段と高まっています。

情報通信ネットワークの分野においては、スマートフォンやタブレット端末などを用いたモバイル・ブロードバンド・サービスが急速に拡大した結果、ネットワークのデータ通信量が急速に増加しております。これに対応するため、通信速度の飛躍的な向上を可能とした通信規格であるLTE (Long Term Evolution) の商用サービスが世界各地で本格化するとともに、公衆無線LANなどによるオフロード化が進展しており、世界の主要な通信事業者や通信端末・機器ベンダーによる開発投資が継続しています。また、通信回線の逼迫を緩和するため、さらなる高速化・大容量化に向けた研究開発需要は旺盛であり、複数の周波数帯を束ねて高速化を実現するキャリア・アグリゲーションなどのLTE-Advanced関連投資が拡大しています。

中国やインドなどの新興国においてもLTEの商用サービスは開始されており、モバイル・ブロードバンドが拡大するための無線通信インフラの整備は積極的に進められています。

一方でモバイル関連市場では、欧米を軸に企業買収や事業再編、あるいは合従連衡等の動きが加速し、顧客の

投資動向も不透明な状況が見られます。スマートフォン製造市場では、先進国において高機能高価格端末の普及が一巡する中、低価格端末ベンダーや低価格のモバイル・サービス事業者 (MVNO) が台頭するなど、市場環境は多様な変化を遂げております。

このような環境のもと、当社グループは、ソリューション強化やラインアップ充実のための開発投資の拡大、顧客サポート力の強化など、アジア・北米等海外事業における事業拡大の基盤整備に取り組みました。

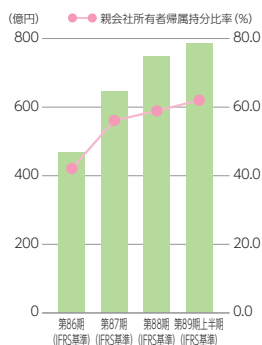
■ 当上半期の業績概要

当上半期は、アジアを中心にモバイル市場向け計測器の需要が堅調に推移したものの、ネットワーク・インフラ市場、エレクトロニクス市場向け計測器需要は総じて低調でした。また、中長期の成長実現に向けて研究開発投資と海外サポート力強化に引き続き注力しました。この結果、受注高は489億49百万円 (前年同期比3.2%減)、売上収益は480億5百万円 (前年同期比0.1%減)、営業利益は46億25百万円 (前年同期比26.9%減)、税引前四半期利益は50億11百万円 (前年同期比23.7%減)、四半期利益は34億91百万円 (前年同期比18.7%減)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は34億78百万円 (前年同期比18.8%減) となりました。

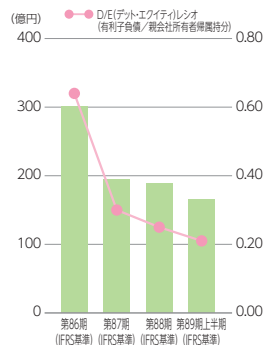
■ 株主の皆様への中間配当

以上の結果、株主の皆様への中間配当につきましては1株につき、12円とさせていただきます。

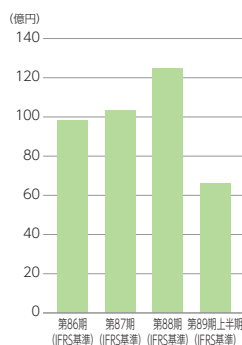
親会社の所有者に帰属する持分合計・親会社所有者帰属持分比率



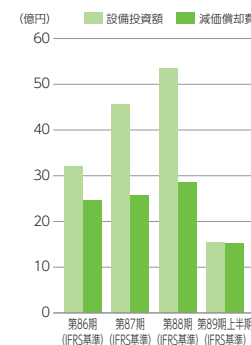
有利子負債・D/Eレシオ



研究開発費 (注1)



設備投資額・減価償却費 (注2)



(注1) 研究開発費は、一部資産化した開発費を含め研究開発費投資額を記載しております。

(注2) 設備投資額は、期中に無形資産に計上した資産化開発費は含めておりません。減価償却費は、無形資産に計上している資産化開発費の償却額は含めておりません。

計測事業

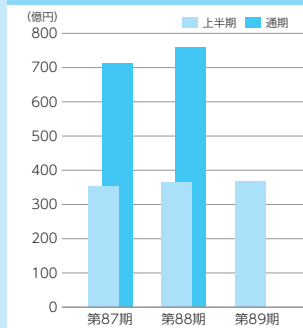
【主要製品等】 デジタル通信・IPネットワーク用測定器、光通信用測定器、移動通信用測定器、RF・マイクロ波・ミリ波帯汎用測定器、サービス・アシュアランス

●売上収益 366億59百万円 (前年同期比 0.4%増)

●営業利益 46億73百万円 (前年同期比23.0%減)

- ・モバイル市場においてアジアを中心にLTE/LTE-Advanced開発用計測器の需要が堅調に推移しました。
- ・ネットワーク・インフラ市場、エレクトロニクス市場向け計測器需要は総じて低調でした。
- ・開発案件の増加等に伴い研究開発投資は前年同期を上回る水準となりました。
- ・海外顧客サポート力強化のための費用が高水準で推移しました。

売上収益の推移



生産ライン用測定器
(スマートフォンやタブレットの大量生産
製造ライン用測定器
最大4セットの端末の評価が可能)

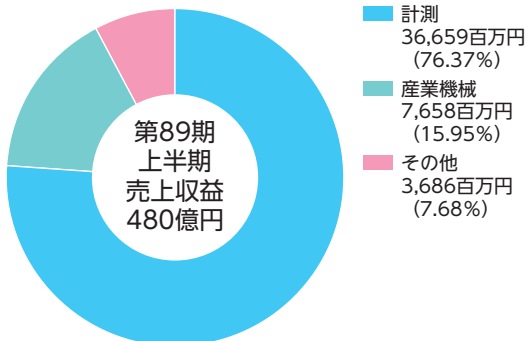


無線ネットワーク用測定器
(小型・軽量で測定現場に簡易に持ち運べる
信号解析器
屋外での電波の品質測定に使用される)

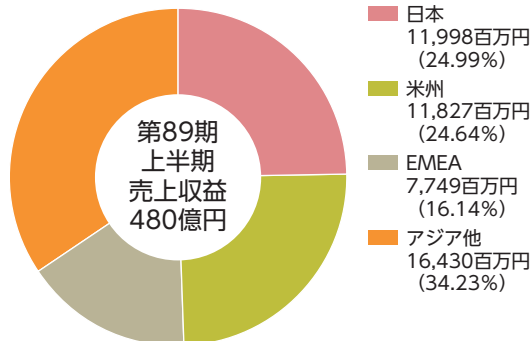


光ネットワーク用計測器
(1台で光ネットワークを構成する各種光/
デジタル通信規格の評価に対応)

事業部門別売上収益 (連結)



地域別売上収益 (連結)



産業機械事業

【主要製品等】自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機、精密寸法測定機

●売上収益 76億58百万円 (前年同期比 6.2%減)

●営業利益 1億31百万円 (前年同期比79.2%減)

- ・海外市場では堅調に推移しましたが、日本市場においては売上収益が前年同期実績を下回りました。
- ・食品産業向けで国内の更新需要の獲得及び海外市場での拡販に向けて、研究開発投資と販売促進活動に積極的に取り組みました。

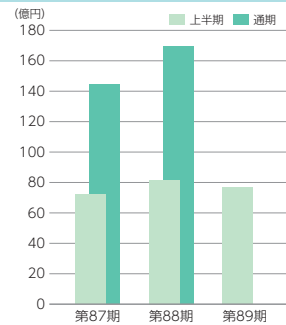


X線異物検出機
(食品の生産ラインで粉れ込む金属や石、プラスチックなどの異物検出が可能)



重量選別機
(食品・薬品の生産ラインで使用され、内容量が適正かどうかを検査する選別機)

●売上収益の推移



その他の事業

【主要製品等】情報通信、光デバイス、不動産賃貸等

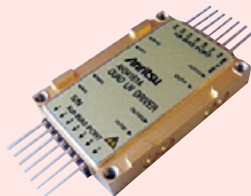
●売上収益 36億86百万円 (前年同期比 9.3%増)

●営業利益 2億16百万円 (前年同期比802.6%増)

- ・デバイス事業で前期に行った事業構造改革の成果もあり増収となりました。

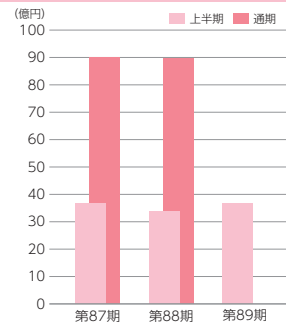


帯域制御装置
(通信事業者や金融機関などの高品質なIPネットワークの運用を支援)



高速電子デバイス
(次世代超高速通信ネットワークの心臓部となる電子部品)

●売上収益の推移



要約連結財政状態計算書

第88期 平成26年3月31日現在
第89期上半期 平成26年9月30日現在

(単位：百万円)

科目	第88期	第89期 上半期	科目	第88期	第89期 上半期
資産	127,149	126,771	負債	52,253	48,212
流動資産	90,010	89,447	流動負債	33,796	32,863
現金及び現金同等物	43,215	45,096	営業債務及びその他の債務	8,451	8,618
営業債権及びその他の債権	25,687	21,735	※社債及び借入金	6,898	7,010
その他の金融資産	1,098	1,295	その他の金融負債	248	171
棚卸資産	17,053	18,710	未払法人所得税	3,835	2,592
未収法人所得税	183	271	従業員給付	7,112	6,546
その他の流動資産	2,772	2,338	引当金	291	312
非流動資産	37,139	37,323	その他の流動負債	6,958	7,609
有形固定資産	19,747	19,707	非流動負債	18,456	15,349
のれん及び無形資産	2,023	2,341	営業債務及びその他の債務	392	361
投資不動産	2,164	2,082	※社債及び借入金	11,960	9,475
営業債権及びその他の債権	306	366	その他の金融負債	104	73
その他の金融資産	2,209	2,593	従業員給付	3,322	3,141
持分法で会計処理されている投資	249	68	引当金	131	132
繰延税金資産	10,264	10,142	繰延税金負債	323	350
その他の非流動資産	173	22	その他の非流動負債	2,222	1,814
合 計	127,149	126,771	資本	74,896	78,558
			親会社の所有者に帰属する持分合計	74,886	78,536
			資本金	19,052	19,052
			資本剰余金	28,191	28,217
			利益剰余金	23,521	25,567
			自己株式	△ 868	△ 869
			その他の資本の構成要素	4,988	6,568
			非支配持分	10	22
			合 計	127,149	126,771

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結財政状態計算書のポイント

■ 資産

営業債権及びその他の債権が減少した一方、現金及び現金同等物、棚卸資産が増加し、資産合計は前期末から3億78百万円減少し、1,267億71百万円になりました。

■ 負債

非流動負債における社債及び借入金並びに流動負債における未払法人所得税が減少し、負債合計は前期末から40億40百万円減少し、482億12百万円となりました。

有利子負債は、164億86百万円になりました。

※第5回無担保社債 60億円
満期 平成29年9月22日
利率 年0.81%

シンジケートローン 50億円
満期 平成27年9月28日

■ 資本

利益剰余金の増加により、資本は前期末から36億62百万円増加し、785億58百万円となりました。

要約連結純損益及びその他の包括利益計算書

(第88期上半期：平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)
(第89期上半期：平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第88期 上半期	第89期 上半期
売上収益	48,053	48,005
売上原価	21,986	22,763
売上総利益	26,066	25,241
その他の収益・費用		
販売費及び一般管理費	14,070	14,384
研究開発費	5,774	6,433
その他の収益	112	344
その他の費用	7	143
営業利益	6,325	4,625
金融収益	549	454
金融費用	316	142
持分法による投資収益	8	74
税引前四半期利益	6,566	5,011
法人所得税費用	2,270	1,520
四半期利益	4,296	3,491
純損益に振り替えられないことのない項目 その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	151	245
計	151	245
純損益に振り替えられる可能性のある項目 在外営業活動体の換算差額	1,116	1,334
計	1,116	1,334
その他の包括利益合計	1,268	1,579
四半期包括利益	5,564	5,071
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	4,282	3,478
非支配持分	13	12
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,550	5,058
非支配持分	13	12
1株当たり四半期利益（親会社の所有者に帰属）		
基本的1株当たり四半期利益（円）	29.88	24.27
希薄化後1株当たり四半期利益（円）	29.86	24.27

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結純損益及びその他の包括利益計算書のポイント

■ 売上収益

アジアを中心にモバイル市場向け計測器需要が堅調に推移したものの、ネットワーク・インフラ市場、エレクトロニクス市場向け計測器需要は総じて低調で、前年同期比0.1%減となりました。

■ 営業利益・四半期利益

中長期の成長実現に向けた研究開発投資、海外での顧客サポート力強化投資が高水準で推移したことなどにより、営業利益は前年同期比26.9%減、四半期利益は前年同期比18.7%減となりました。

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(第88期上半期：平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)
(第89期上半期：平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第88期 上半期	第89期 上半期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	6,566	5,011
減価償却費及び償却費	1,517	1,635
減損損失	0	—
受取利息及び受取配当金	△ 90	△ 136
支払利息	136	117
固定資産除売却損益（△は益）	△ 20	42
営業債権及びその他の債権の増減額（△は増加）	3,084	4,819
棚卸資産の増減額（△は増加）	△ 1,344	△ 1,210
営業債務及びその他の債務の増減額（△は減少）	△ 1,162	△ 598
従業員給付の増減額（△は減少）	△ 562	△ 420
その他	951	58
小計	9,075	9,318
利息の受取額	64	65
配当金の受取額	42	78
利息の支払額	△ 127	△ 112
法人所得税の支払額	△ 1,723	△ 2,821
法人所得税の還付額	464	159
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,797	6,688
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△ 733	△ 955
定期預金の払戻による収入	—	907
有形固定資産の取得による支出	△ 2,210	△ 1,085
有形固定資産の売却による収入	7	18
その他の金融資産の取得による支出	△ 3	△ 3
その他の金融資産の売却による収入	5	—
持分法で会計処理されている投資の売却による収入	—	221
その他	△ 365	△ 683
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,298	△ 1,578
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	2,500
長期借入金の返済による支出	△ 300	△ 4,900
配当金の支払額	△ 1,791	△ 1,433
その他	△ 282	△ 185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,374	△ 4,018
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	657	789
V 現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	2,781	1,880
VI 現金及び現金同等物の期首残高	37,690	43,215
VII 現金及び現金同等物の期末残高	40,471	45,096

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期利益の計上、営業債権及びその他の債権の減少により資金が増加した一方、法人所得税の支払により資金が減少した結果、当上半期における営業活動の結果獲得した資金は純額で66億88百万円となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出等があり、当上半期における投

資活動の結果使用した資金は、純額で15億78百万円となりました。

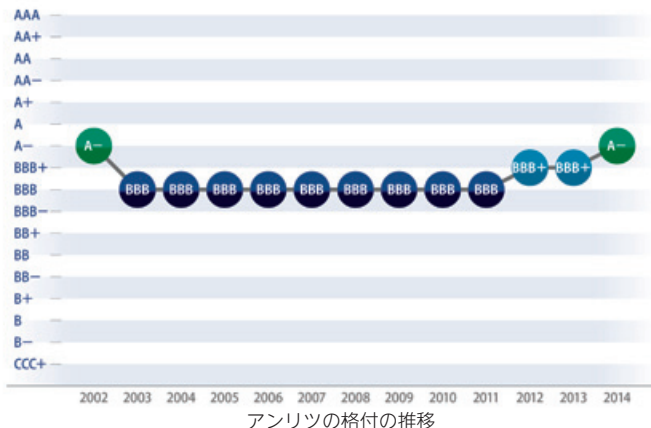
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済49億円及び配当金の支払14億33百万円により資金が減少した一方、長期借入れ25億円により資金が増加し、当上半期における財務活動の結果使用した資金は、純額で40億18百万円となりました。

■アンリツの格付がBBB+からA-に

2014年5月、日本最大規模の格付機関、(株)格付投資情報センター (R&I)が、アンリツの格付を「BBB+」から「A-」に変更しました。これまでの格付だったBBBは「信用力は十分であるが、将来環境が大きく変化する場合、注意すべき要素がある」という評価であり、外部環境の変動が業績への不安材料とされていました。これに対し、A格は「信用力は高く、部分的に優れた要素がある」とされています。R&I社は、モバイル計測分野の伸張により、収益基盤の安定化と財務基盤の強化が進んでいることを評価し、アンリツをA-に格上げしました。

A格になったことにより、より有利な条件で資金調達が行えることとなります。また、一般的にBBB以上が投資に適した企業とされており、今回の格上げにより、アンリツの投資適格性はさらに高まったといえます。



■オートチェッカ発売開始50周年

2014年、アンリツ産機システム(株)のオートチェッカ（重量選別機）が、発売開始50周年を迎えました。オートチェッカ1号機が登場したのは1964年です。経済成長に伴う生活水準の向上により、スーパーマーケットでは小袋詰め食品が普及し始めていました。こうした中、計量法の改正により量目表示が厳格化してきたことから、食品メーカーにおいては大量生産する商品の重さを正確かつ効率よく検査したいという要望が増えてきました。この市場ニーズに対応するため、電子マイクロメータの差動トランス技術を応用した「はかり」をもとに、重量選別機を開発し、販売を開始しました。「オートチェッカ」と命名されたこの商品は、食品業界の注目を浴びて大ヒットし、ここからアンリツのオートチェッカの歴史が始まりました。以来、オートチェッカは、時代とともに移り変わるお客さま・市場のニーズに応じて進化を続け、食の安全と安心の確保に貢献しています。



オートチェッカヒストリー

■ アンリツのホワイト企業度は3位

東洋経済オンラインが発表した中堅企業の「ホワイト企業ランキングトップ20」において、アンリツが3位となりました。このランキングは、「人材活用」、「環境」、「企業統治プラス社会性」の3項目を100点満点で採点し、合計点でランク付けしたものです。また、3年連続ROE（株主資本利益率）10%以上という厳しい基準が設けられています。アンリツは、「環境」で91.3点という最高得点となるなど、合計で255.8点を獲得し、ホワイト度の高い企業として評価されました。

順位（CSR順位）	社名	業種	CSR合計 (300)	人材活用 (100)	環境 (100)	企業統治 +社会性 (100)	ROE (%)
1 [92]	アシックス	その他製品	263.4	89.5	87.0	86.9	11.1
2 [128]	SCSK	情報・通信業	257.3	86.8	79.7	90.8	13.9
3 [122]	アンリツ	電気機器	255.8	78.9	91.3	85.6	16.0
4 [131]	ツムラ	医薬品	246.7	75.0	84.1	87.6	13.6
5 [237]	イオンモール	不動産業	236.7	61.8	89.9	85.0	11.1
6 [165]	シスメックス	電気機器	233.9	88.2	59.4	86.3	12.0
7 [161]	伊天製菓	医薬品	232.6	71.1	73.9	87.6	11.4
8 [211]	日本ゼオン	化学	229.6	78.9	71.0	79.7	13.2
9 [195]	小林製薬	化学	224.7	77.6	66.7	80.4	10.8
10 [325]	クラリオン	電気機器	221.0	72.4	82.6	66.0	22.8

ホワイト企業「総合」ランキング（中堅企業版）

■ 「こめら外遊びデビュー大作戦」でボランティア支援

アンリツでは、福島市や郡山市の未就学児の支援活動として、「こめら外遊びデビュー大作戦」（「こめら」は福島の方言で、「子供たち」の意味）に取り組んでいます。

福島では、震災以降、子供たちが自由に外で遊べる機会がなかなかありませんでした。そこで、子供たちが安心して外遊びや自然体験ができる機会を提供しようと、「セーブ・ザ・チルドレン」（NGO）がこの活動を企画・運営し、NPO法人「こどもの森ネットワーク」が主催して、2014年7月から10月にかけて、計10回行われました。アンリツは、活動資金を援助するとともに、社員がボランティアとして参加し、子供たちの外遊びをサポートしました。



福島市・郡山市の子供たちと外遊びを楽しみました

会社の概要 (平成26年9月30日現在)

商号 アンリツ株式会社
 ANRITSU CORPORATION
 本社 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号
 (〒243-8555)
 創立 昭和6年3月17日
 資本金 190億円
 従業員数 3,964名(連結) 806名(単独)

役員

代表取締役社長	橋本裕	一
代表取締役	田中	二
取締役	政谷	三
取締役	合田	四
取締役	窪田	五
取締役(社外取締役)	青井	六
取締役(社外取締役)	関井	七
取締役(社外取締役)	青山	八
常勤監査役	木口	九
常勤監査役	川中	十
監査役(社外監査役)	田中	十一
監査役(社外監査役)	神谷	十二
		十三
		十四
		十五
		十六
		十七
		十八
		十九
		二十
		二十一
		二十二
		二十三
		二十四
		二十五
		二十六
		二十七
		二十八
		二十九
		三十

執行役員

社副社長	橋本裕	一
常務執行役員	田中	二
常務執行役員	政城	三
常務執行役員	高谷	四
常務執行役員	高谷	五
常務執行役員	舟橋	六
常務執行役員	永田	七
常務執行役員	窪田	八
常務執行役員	ゲラルド・オストハイマー	九
常務執行役員	橋本	十
常務執行役員	服部	十一
常務執行役員	清家	十二
常務執行役員	ウェイド・ヒューロン	十三
常務執行役員	脇永	十四
		十五
		十六
		十七
		十八
		十九
		二十
		二十一
		二十二
		二十三
		二十四
		二十五
		二十六
		二十七
		二十八
		二十九
		三十

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しております。

国内ネットワーク

厚木

アンリツ株式会社(本社)
(計測器等の開発、販売)



アンリツ産機システム株式会社
(産業機械の開発、製造、販売)

アンリツネットワークス株式会社
(情報通信機器の開発、販売、保守)

アンリツカスタマーサポート株式会社
(計測器の校正、修理、保守)

アンリツデバイス株式会社
(光デバイスの開発)

アンリツエンジニアリング株式会社
(ソフトウェアの開発)

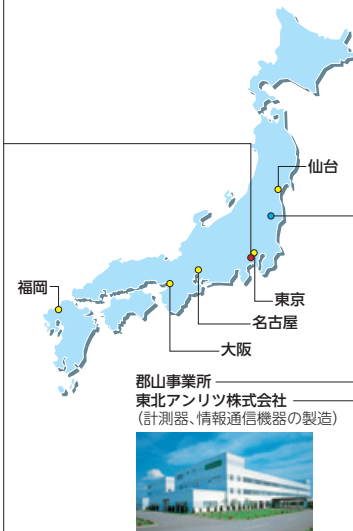
アンリツ興産株式会社
(施設管理、厚生サービス、カタログ等制作)

アンリツ不動産株式会社
(不動産の賃貸)

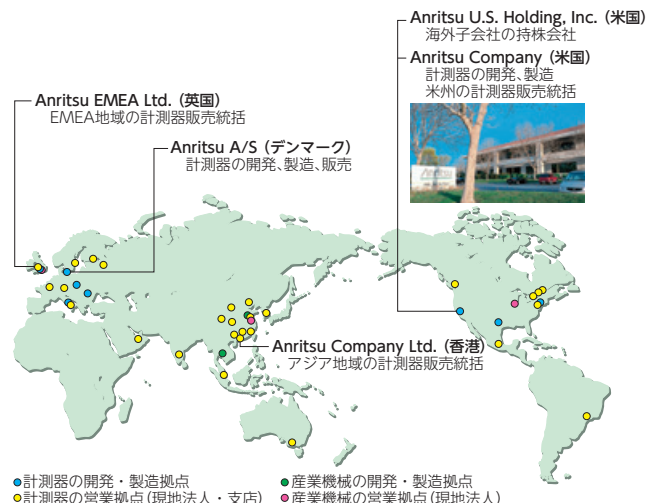
株式会社アンリツプロアソシエ
(シェアード・サービス・センター業務)

平塚

A1テクノロジー株式会社
(加工品、ユニット組立品の製造、販売)

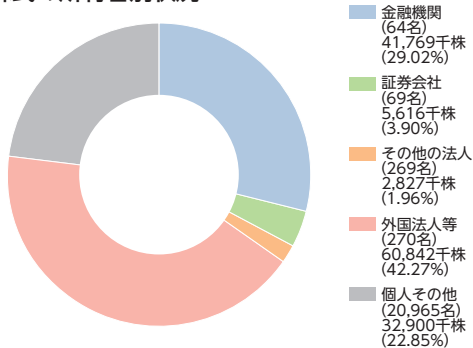


海外ネットワーク



株式の状況 (平成26年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 / 400,000,000株
- 発行済株式総数 / 143,956,194株
- 株主数 / 21,637名
- 株式の所有者別状況

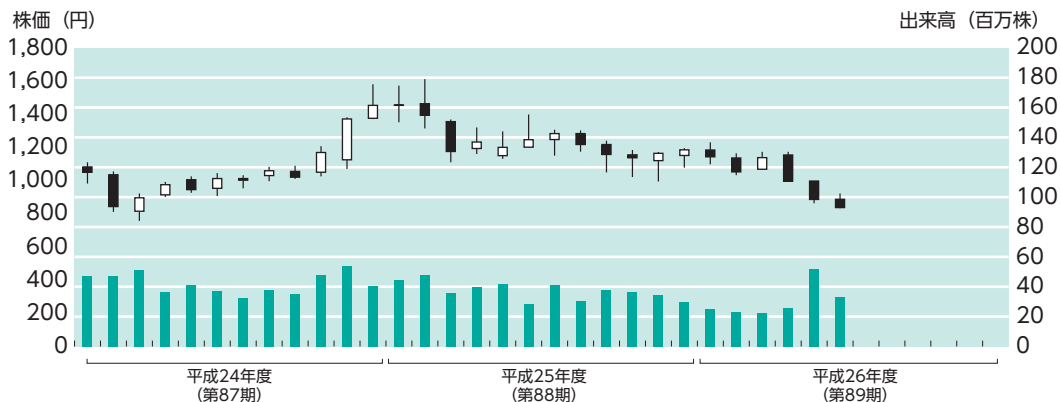


大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,654	4.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,304	4.40
BBH FOR MATTHEWS ASIA DIVIDEND FUND	6,060	4.23
NOMURA BANK (LUXEMBOURG) S.A. S/A NOMURA MULTI CURRENCY JAPAN STOCK LEADERS FUND	5,473	3.82
J P M O R G A N C H A S E B A N K 3 8 5 0 7 8	5,168	3.61
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	4,884	3.41
全国共済農業協同組合連合会	4,306	3.00
三井住友海上火災保険株式会社	2,668	1.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・三井住友信託退給口	2,500	1.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	2,467	1.72

(注) 持株比率は自己株式(643,665株)を控除して計算しております。

株価・出来高の推移



社債の状況

銘	柄	発行日	社債残高	転換価額	転換率
平成29年9月22日満期 第5回無担保社債		平成24年9月24日	6,000 百万円	— 円	— %

■株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
■定時株主総会	毎年6月開催	
■基準日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当金	毎年3月31日
	中間配当金	毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日	

■株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

■特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

■公告の方法 当社ホームページに掲載します。
(URL) <http://www.anritsu.com/ja-JP/koukoku.asp>

■単元未満株式の買取り及び買増しについて

単元未満株式(100株未満の株式)を保有されている株主様は、当社に対し、保有されている単元未満株式の買取請求をすることにより、売却することができます。また、当社に対し、保有されている単元未満株式と合わせて単元株式数(100株)となる数の株式の買増請求をすることにより単元株式とすることもできます。買取請求・買増請求をする場合は、お取引先の証券会社(口座管理機関)にお問い合わせのうえ、お手続きください。特別口座に記録されている単元未満株式の買取請求・買増請求の場合は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお問い合わせのうえ、お手続きください。

Anritsu
envision:ensure

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

